



英語発音について

当校生徒様（Aちゃん/年長児）のお母様からあるご相談を受けた。Aちゃんが「"See you"（またね）の"S"の発音を正しく出来ていない」というお話だ。私はお母様に「発音矯正のための別途のレッスン時間を作らせてほしい」と依頼した。お母様と一緒にご来校いただき、厚かましくも私から発音の指導をさせていただいた。

Aちゃんに "see you" と話していただくと、確かにお母様の仰るとおり、"si: yu:"の音ではなく、"shi: yu:"の音である。これは、英語発音からすれば、全く別音だ。

彼女はなぜ、"see"の発音が正しくできなかったのだろうか？一般的に年齢の低いお子様は、「聞いた音をそのまま再生する能力が高い」「苦勞をしなくても他言語を身につけられる」と言われている。苦勞を伴う学習をせずとも母国語を話すことができるのはそのためであろう。ではAちゃんは例外だったのか...? いや、そうではない。

実はAちゃんには「母国語（日本語）の干渉」が強く生じていたため、発音に障害が現れたのである。

日本語とは、母音中心の言語である。「子音+母音」の組合わせか、もしくは「母音のみ」で全ての音が構成される。例えば「か、き、く、け、こ」は「ka, ki, ku, ke, ko」であり、母音の「a, i, u, e, o」が子音（K）と組み合わされて、それらの音が作られている。つまり日本語とは「子音のみを発音することがない、特殊な言語」なのである。それに対し、英語とは「子音」のみの発音が多々あり、むしろその方が多い言語である。

Aちゃんが "si: yu:" と発音することに抵抗があったのは、「S」(子音) のみの音を出す事に違和感を感じたためであろう。彼女は英語のその音を、どうにか馴染みのある日本語「し」に転換しようとしていたのだ。

成人よりも「発音吸収能力が高い」といわれているお子様であっても、それが第二言語以上の学習となった場合、時に第一言語（母国語）の知識が他言語の吸収や上達を阻むことが多々あることは事実である

Aちゃんと私はおおよそ30分程のプライベートレッスンをを行い、彼女は綺麗な"S音"が出せる様になった。ご家庭での発音訓練の課題を差し上げ、毎日数分間をその課題に時間を割いてもらうようお願いした。

ところで、このAちゃんのお母様は、Aちゃんの出席クラスの録画DVDを毎回ご購入なさっている。お母様は、Aちゃんが「どうレッスンを受けているのか」、「レッスン中では何を褒められ、何が課題だったか」を、お子様と一緒にご自宅で振り返り、お嬢様の上達度をしっかりと把握しようとなさっている。私は予々このお母様の熱意を存じていたため、今回、お母様からの上のご質問があった際、即座に無料のプライベートレッスンをご提案差し上げた。「子どもの学習は学校に任せきり」では、お子様の上達に限界がある。

ヨーロッパの様に、似た言語が隣り合わせの国々の場合は別であるが、この日本において、他言語を習得するというは課題が山積みである。それは発音だけに留まらず、文法やリスニング等、あらゆる分野で待ち受けている。是非、Aちゃんのお母様の様に、積極的にお子様の英語学習に参加をしていただきたい。そしてご質問等があった場合には、是非に当校までお尋ねいただきたいと思う。私たちは心から、生徒様に英語を楽しく学んでいただき、是非に「使える英語」を身につけていただきたいと思っている。そのサポートをさせていただくことが、私たちの皆様への責任であり、私たちの喜びであるのだ。

Atsuko Saffell

No-Class Days in March 3月休講日のお知らせ

3月は下記の日が休講となります。

★ 3月20日 (火) ★ 3月29日 (木)

ご迷惑をおかけ致します。よろしくお願い致します。

Cafe information! カフェのお知らせ

3月、「チキンヌードルスープ ¥400」が新発売！

アメリカでは欠かせない、「ママの味」！一度食べたならもう病みつきになること間違いなし！！「風邪を引いたら、コレ」という定番のスープ。このスープで身も心もポカポカ



New Classes ! 新規クラスのお知らせ

木曜日 5:10-6:00pmに新規キッズクラス開講！

【Kids Level 5 (中級レベル)】

*子音、母音の組合わせを理解し、ことば作りができることを目標とする

*文の要素、時制の理解を目標とする

*小学2~3年生向き

上級特選クラス (週1回クラス) も新たなレベル分けを行い、再スタート致しました！

ご関心の方は、当校受付までお問い合わせ下さい。